



初詣は三密を避けて一月末に伊豆山神社へ写真提供：佐伯泰英事務所

佐伯通信

2021年3月(令和3)
第55号
発行
佐伯泰英事務所
担当/光文社
禁・無断転載

小籾次の「ふるさと」

大分県玖珠郡森町の伊勢屋さんから季節の挨拶とともに玖珠産ひとめぼれと古山城であった角埋山の雪景色の写真が二枚同封されて届いた。ムレは古代朝鮮語で山を意味するまてな。さて、ここまで読んで私の「酔いどれ小籾次」シリーズと重ねる読者はおられよう

か。そう、この玖珠は赤目小籾次の代まで長らく下土として奉公した豊後国森藩久留島家一万二千五百石の所領地なのだ。何年も前、娘と訪れたことがある。江戸藩邸下屋敷の厩番で領地に一度も戻ったことのない小籾次の想いを感じとるためだ。小籾次の活躍する時期は、八代目久留島通嘉の治世だ。陣屋の久留島館の跡を訪れたあと、どこに向かうか思索しながら歩いていると米屋さんが「おいでおいで」と私を親子を店に招いてくれた。米屋の伊勢屋の店内にはなんとテーブルと椅子があって珈琲を供された。玖珠城下はひなびた上に親切にも

佐伯泰英 / 近刊のお知らせ

7月 7日	6月 16日 8日	5月 7日	4月 6日
《文春文庫》※単行本・電子書籍も同時発売 照降町四季 4 『一夜の夢』	《光文社文庫》※単行本・電子書籍も同時発売 『出絞と花簪』(仮)	《文春文庫》※単行本・電子書籍も同時発売 照降町四季 2 『己丑の大火』	《文春文庫》※単行本・電子書籍も同時発売 照降町四季 1 『初詣で』

人の生き死に

光文社 文庫編集部
「新・吉原裏同心抄」「吉原裏同心抄」
「吉原裏同心」 「夏目影二郎始末旅」担当

小口 稔

みなさま、『新・吉原裏同心抄 祇園会』をお読みいただきありがとうございます。今回は最後にこれまでの長きにわたる物語でも最大級の衝撃が待っております。京と吉原、二つの町での物語は思いもかけない展開を迎えることとなりました。十月刊行を予定しておりますシリーズの最新刊は、いろんな意味で目が離せないものになるはず。待ちきれない方も多いかと思いますが、それまではぜひ本書を何度もお読みください。私もそういたします。

新型コロナウイルス禍が世界を変えて一年が経過いたしました。なかなか収束には至りませんが、この一年、人の生き死に、というものをより考える機会が増えているのではないのでしょうか。そのような時には、時代小説を読むのが最適かもしれません。現在より人生も短かった時代、その中で精一杯に生き、死んでいく人間の姿は、今を生きる私たちにとっても示唆に富むものではないでしょうか。

さて、四月からは文春文庫で新シリーズが連続刊行、また電子書籍の一挙刊行でも話題の佐伯先生ですが、弊社でも昨年の『新酒番船』に続く読み切り作品を今年も六月に刊行いたします。仮タイトルは『出絞と花簪』。今回もこれまでの作品とは一味違った青春ものになりそうです。こちららどうぞよろしくお願いたします。

近刊・作品情報はこちらでもチェックできます。
<http://www.saeki-bunko.jp> 佐伯泰英 ウェブサイト 検索

2021年の「佐伯通信」は、佐伯泰英事務所が(株)文藝春秋、(株)光文社の協力のもと発行します。

長閑だった。「これからはこへ行かれますんか」「藩主所縁のお寺にお参りに」「ほなら、俵に案内させます」「珈琲はおいくらで」「うちは米屋、珈琲は接待です」と言われて恐縮した。この出会い以来、季節ごとに文通するようになった。よく考えたら親子で玖珠に行っただもかわらず、未だ小籾次は所領地玖珠を訪ねていない。近く小籾次と駿太郎親子を玖珠へと旅させようかと、考えている。

「居眠り聲音」決定版 完結記念
読者プレゼント!

A賞 抽選で2000名様
全巻カバー原画総覧「江戸美五十一景」シール

B賞 全51巻読破した人全員に
シリアルナンバー入り!「完読認定証」+特製「聲音ワッペン」+全巻カバー原画総覧「江戸美五十一景」シール

聲の子・空也の物語、ついに再始動!!
『声なき蟬』 上下 空也十番勝負 決定版

8月3日発売予定

著者初女性職人を描く書き下ろし新作
『出絞と花簪』(仮)

「全四巻」4ヵ月連続刊行
てりふりちようのしき
照降町四季
初詣で

4月6日発売 単行本同時発売

「新酒番船」に続く読み切り新作!
『出絞と花簪』(仮)

6月16日発売

出版社からのお知らせ ● 文春文庫
京北山を舞台に描く青春物語